

埼玉県退職校長会
大里支部会報

おしゃべり

第 4 4 号

(題字は支部長)
平成30年2月1日

発行者
若林直樹

あいさつ

アクティブライフ

副支部長 新井 民男

十一月七日寄居町カタクリ体育センターでの第三十八回大里地方教育推進協議会が成功裏に終了できましたこと、有難く存じます。現役の校長からは、激務の時間を差し繰っての参加に重ね、精気溢れる経営の実像をお聞きし、僭越ながらも頼もしさを覚えました。

当日参加された会員からは様々な組織の要職につき活躍されたり、地域のボランティア活動に積極的に取り組まれたりしている様子をうかがうことができ、現役時代とは別の「活力」を感じ嬉しく思いました。

今、学校現場では新学習指導要領の重点として「主体的・対話的で深い学び」が指導法のキーワードとなり、先生方も研修・研究に日々取り組んでいるようです。

しかし、これは新しい指導法でなく、私たちが現役のとき求めていた指導法と本質は変わらないと考えます。

変わらない「真」です。学校は、毎日、様々な諸課題に取り組んでいて大変でしょうが「新」に感うことなく、「真」を追求していつて欲しいと心から願ひ、退職校長会もできる限りの支援・応援をし続けたいと考えています。

「対話し話し合い」は形を整えた「おしゃべり」です。「討論は知の消費であり、おしゃべりは知の生産のため」(森毅「京都のおしゃべり文化」)

私たちも趣味や特技を生かし・励み、それを同好の士と分かち合ひおしゃべりし、地域の方々と交流しながらの人生を、と思ひます。ゴルフ、囲碁将棋、写真、音楽、俳句、短歌、絵画等々…。どれもやってみれば奥深いものに違ひありません。

とにかく何事も大上段に振りかざすのではなく、地味にコツコツと

でよいのではないのでしょうか。学校現場では「主体的・対話的で深い学び」(アクティブラーニング)で！

第三十八回 大里地方教育推進協議会

快晴に恵まれたおだやかな晩秋の一日、寄居町の自然に溢れた折原地区にあるカタクリ体育センターを会場として、第三十八回大里地方教育推進協議会が開催されました。百二十名に近い参加者で会場満席の中、梅澤泰助副支部長の司会進行で開会、富田法昭副支部長が慎重に確認しながら開会のことば。

主催者あいさつは、まず若林直樹退職校長会大里支部長より。ちよつと容易でない現状の中で、皆さん立派な校長先生になって頑張つてらな…と安心、安堵の思いを述べられました。カタクリ会館からの景色を喜んでいただけました。

神田昌文大里地方校長会からは五十四小学校、二十九中学校とも全力で学校経営に取り組んでいること、今日の研究協議会を機に、一旦立ち止まりゆっくりと日々の実践を振り返りたい旨のあいさつがありました。

ング)、私たちは「アクティブライフ」で！

ご来賓の花輪利一郎寄居町長様からは、二〇二〇年、東京オリンピック、パラリンピックのブータン国陸上合宿地に決まったこと、町をあげてアクティブラーニングへの取り組みを大いに期待しながら強力にバックアップしてくださっていることをご紹介いただきました。続いて轟和男寄居町教育長様からは、町の強力な後押しをいただき学力向上のため全力を尽くしているとの報告がありました。浅見勲県退職校長会副会長様からは、本協議会が「彩の国教育の日」協賛の行事であることの確認があり、改めて教育に関わる私どもも姿勢や日常の有り様を見返す思いがしました。研究協議の議長は、



新井民男副支部長。

○提案1

○熊谷市立妻沼西中学校

長島 正雄校長

○「学校・家庭・地域が一体となった教育」～実生活における道徳の見える化を通して

○提案2

○退職校長会 寄居班

石澤 邦彦会員

○俳句を通して心を耕す

お二人とも、道徳性と豊かな人間性を育むことの重要さと必要性を強く述べておられました。人を育てる教育者や経験者として、協議会の参加者全員、それぞれの立場でなんとかしなければと強く思ったのではないのでしょうか。

埼玉県教育局北部教育事務所長 加松浩様のご指導をいただき、未



来を背負う心豊かな子どもたちを育て、人間愛に溢れた社会を築かねば」と改めて認識しました。

大里地方校長会瀧口裕史副会長の閉会のことばで会を閉じました。

(文責 梅澤泰助)

感謝

田中 昇

朝は、吐く息が白くなるほどの立冬の日、清々しい空気の中での協議会の開催となりました。

提案1では、「学校・家庭・地域が一体となった教育」として、熊谷市立妻沼西中学校の長島正雄校長から発表がありました。

特に、平成二十七年年度から道徳的実践力の育成を目指した研究に取り組み、生徒の心の変容を可能な限り目に見えるようにしようとする授業実践は、とかく難しいと言われる道徳教育の一つの道筋を示したものと言えます。

提案2では、「俳句を通して心を耕す」について、石澤邦彦先生からの発表で、退職後新聞紙上等へ俳句の意欲的な投稿を続けておられるという話を伺い、弛みない向上心を感じた次第です。

また、俳句を通して男衾小の子

どもたちとも関わりを持ち、創作活動に取り組んでいるとのことです。こうした活動を通して、小さな四季の変化に気づいたりするなご子どもたちの感性を育むことに繋がっていることはすばらしいことです。最後に、石澤先生から、

「五、七、五をあれこれ考えることが脳の活性化に繋がっている」とのお話して、頭が痛くなる思いでした。

お二人の先生には、数々の実践に基づいた発表をありがとうございました。

随想



「出会い」を大切に

熊谷南 馬場 攻

退職して十五年を経過するが、現在いくつかの市や町の教育委員会評価を依頼され行っている。評価内容は大きく分けて学校教育、生涯教育になる。私が担当しているのは学校教育が中心で学校の在り方や子どもたちの学力・生活態度、教師の資質・研修に関わることである。この評価項目から現職の時点どんな学校経営をしたのか、職員や子どもたちとの接し方、保護者や地域との連携の在り方をどのようにしたのか等を振り返りながら資料に沿って気がついたことを指摘している。人や資料との新しい「出会い」の始まりです。

私は現職の時、四月当初、「出会い」を大切にしている教師になって欲しいということで、次のような話をしていった。本年度も何人かの同僚が去り、新しく先生方を迎えた。クラスの子どもたちも編成替えて新しい友だちを迎え、担任の交代で教師と子どもとの関係も新しくなった。学校における教師と教師、教師と子ども・保護者・地域子どもと子ども……の出会いには利害を超えて純真なものである。その中で触れ合いは生涯に強い「印象」「なつかしさ」を残す。子ども、保護者は学校、教師、友だちを自由に選ぶことができない。この「運命的な出会い」を大事に育てていくことはすばらしいことだし、この成長過程に最善の努力を傾けることが自らの成長とともに

に自分自身の人間としての生き方そのものである。子どもと教師との出会いで子どもの人生が決まってしまうということさえある。

教師という職業は人との出会いが多く、その出会いにはつながりがあり、連続性がある。まるでドラマのようである。

人生を楽しむ達人

熊谷東 加賀崎公子

私が県立北教育センターに勤務していた当時、教科教育部長としてご指導いただいた、新井俊一先生についてお許しをいただきました。かせていただくことにしました。

当時、教科教育部では、大里に関係する指導主事として、角田光男先生、蜂須栄先生、塚本喜一郎先生、根橋文武先生が県北の教科教育の向上のためにお力を注いでおられました。新井先生は音楽を担当しながら、部長としてセンター全体に関する業務、私達指導主事への指導助言など多くの仕事を進めておられました。

そんなお忙しい中であって、先生は海外派遣に出られた後、「悠久の丘」という旅行記を発行され、短歌集やご自分で作詞・作曲され

た曲のご紹介もしてくださいました。特に、お母様が子ども五人を連れて満州から引揚げて来られたご体験を詠まれた短歌には、心を打たれました。教科教育部の宴席では、格調高く素晴らしい歌声を披露されました。ご退職後は漢詩の創作もされ、「おおさと」43号では奥様とお花見を楽しまれた「熊谷桜堤」が紹介されていました。数年前からは、PTAコーラスのご指導もしておられるとお聞きしております。

先生がご自身の人生を豊かに楽しんでおられることが、遠くに居る私達にも伝わってまいります。先生のように、仕事を楽しみ、多彩な才能を発揮し、想像力豊かに表現することを楽しんでおられる「人生を楽しむ達人」を羨ましくもあり、尊敬している次第です。私はと申しますと、我が家を訪



(い思物)

れる孫の友達を歓待し、送る門前の虫の音や夕日の美しさに心を癒されながら人生を楽しんでおります。

AI時代到来に思う

熊谷西 山室 鐵夫

退職後、二十年が経過した。この間の変化として特筆すべきは、AI（人工知能）の急速な進歩だったと思う。

昨年の三月、世界最強とうたわれた韓国のイ・セドル九段が「囲碁AI」に敗れ、衝撃が走った。退職した頃の囲碁ソフトは、囲碁のルールを理解した程度で、遊び相手にもならなかったが、十年ほどで「モンテカルロ法」が開発され、アマ高段の棋力に達した。そして、今回ディープラーニング（機械学習の一種）の採用で遂に人間を越えたのである。

ところで、AI囲碁の開発は単にゲームへの挑戦を目指したものではない、自動運転車の開発、医療や人間ロボットへの応用等、コンピュータを軸とした未来社会への指向である。こうした時代に、「人間らしさ」「自分らしさ」とは何であろうか。

コンピュータと人間の碁の違い

は何か。コンピュータには感情がなく、ただ勝率の高い手を目標として対局を進めるのに対し、人間は「意味づけ」をしながら着手を進めることだという。囲碁が着手を通じて相手と心を通わせることから手談とも呼ばれる所以である。昨年三月以来、AI囲碁の真似が流行し、布石が大きく変化した。囲碁四千年の歴史の中で培った囲碁観が変化し、何でもありという現状である。しかし、真似はできても、「なぜ」「どうして」そこに打つのかの問いに、コンピュータは答えてくれない。結局は、自分の感性に従い、碁を通じて会話を楽しむことだと思っている。



心も身体も健康に

熊谷西 茂木 照司

退職後の生活の充実は、何よりも健康第一と聞いた。四十年近く酷使した体は悲鳴を上げ、耳は補聴器のお世話になり、目は二度目の手術をする始末。やはり健康が

大切と痛感する。

五時に起床した後のルーティンは、体重と血圧の定時測定から始まる。冷水コップ二杯を飲むと腸を動かすスイッチが入る。

それから般若心経一巻を写経する。坂東札所巡りで納経することを知り写経を始めたが、毎日やると逆にやめる理由を見つけられなくなる。昨年からは西国札所にもチャレンジし始め、ゆくゆくは四国八十八カ所も巡ろうと計画している。札所巡礼は鎌倉時代にはその原型ができていたらしいが、信仰を大義名分に、旅を楽しむスタンプラリーを考えた先人の智慧が感じられ楽しい。写経の後はラジ操体操をしてから朝風呂で半身浴を約二十分。体温を上げ免疫力を高めるのに効果があるようだ。

朝食は妻手製の野菜ジュースをサラダボールに二杯振り、必ずトイレを済ませて、いざ出勤。仕事を通じて人と関わることで、微力ながら社会貢献をしている実感を持つことができる。

夕方は妻とお決まりのコースを散歩。この定時散歩を含めて一日一万歩を目標に歩いているが、やはり足腰は身体を支える土台と実感する。夕食は大豆製品を中心に軽めに、そして欠かさずポリフェ

ノールたつぷりの赤ワイン。これがないと一日が終わらない。風呂と夕食を済ますといつしか睡魔に襲われ寝床へ。

ああ、健康で充実した一日に感謝。



〈窓辺〉

中山道へへへへ

深谷中 川上美恵子

利根川の土手から見ると冬の浅間山は雪をかぶりひととき美しい。あの山を越えるるとどんな風景が待ち構えているのだろうか。我が家の近くを通る中山道を、浅間山を目指してさらに西へ西へと歩いて行けば京都に着くのだろうか。実際に歩いて確かめたい。先人が切り開いた道を。退職した冬から始まった街道歩きには、いくつもの感動する風景や人との出会いがあった。

新たな発見と学びを

深谷南 大澤 章一

中でも木曾路は想い出深い。江戸時代にタイムスリップしてしまつた奈良井宿の町並み。鳥居峠を越えて藪原宿に入ると、舟形の水甕は旅人を癒してくれた。宮ノ越宿から福島宿へ。どこが中山道なのか、道は川の流れて消えていた。そうかと思えば、往來のない道は木々が茂り森になっていた。そればかりか野生の猿にも出会い、木曾路は深い山の中だった。

上松宿に着くと「御嶽海、新入幕」のポスターが目についた。地元出身の力士を町を挙げて応援している。その御嶽海は今や関脇にまで昇進。これを機に私も御嶽海を応援している。

妻籠宿から馬籠宿はフランス人夫婦と一緒に歩く。行き交う人は外国人ばかり。観光ブームはこんな山の中まで来ている。落合宿の里山は恵那山を背景に美しい。しかし、アップダウンがきつい。やつの思いで中津川に辿り着いた。

これからは未知である美濃路に入る。どんな風景が待っているのだろうか。どんな人とのどんな出会いがあるだろうか。楽しみでならない。難点は交通の便が悪いことだが、私流の楽しみ方でてくと歩いて行きたい。

定年退職して五年目を迎えている。現在、中学校学習支援員として、週二日間の勤務をしているがこの仕事は実質三年目となる。それまで、中学校での勤務経験は全く不安があったが、実際に中学生と接し回を重ねていくと、徐々に生徒の変容が見て取れ、喜びを感じることが多い。

家庭では、畑の野菜作りや除草、庭木の剪定等に追われている。農機具をうまく使いこなせず苦労しているが、野菜や果樹も手を掛けてやるとそれなりの収穫があり、やりがいも感じている。

そうした中で、野菜や果樹が我が子（果実）を大事に守りながら生長させていることを、痛切に感じた。ほとんどのものが葉と見間違える色や模様の果実を付け、特にミニトマトのある種類は、葉がしっかりと巻き付いて果実を覆い隠し、葉を掻き分けないと果実が見つけられないようにしている。我が子を守る自然の姿。それまで何気なく見ていた野菜や果樹の新しい発見である。

さて、そうした中でも、定年前

にはなかなかじっくり取り組みなかつたゴルフやハイキング、旅行など、健康維持と趣味のために積極的に取り組んでいる。

特に、「古文書学習会」では、身近な古文書から新たな史実を発見し、驚きと喜びを感じている。

また、「埼玉の河川を考える会」では、現地を探訪して、用水や舟運、洪水等の歴史、堤防や親水公園化の現状等を見つめ、様々な発見をし感動を覚えている。

今、他にもやりたいことがふつふつと湧いてくる。これまでの生き方を振り返りつつ、新たな生きがいに向かって挑戦したい。

地域デビュー

深谷中　松本章

早いもので退職して七年目になる。現在は、学校総合支援員として、中学校に勤務している。

昨年は私にとって、地域デビューの年になった。三月、自治会の会長さんと副会長さんが来宅し、自治会の評議員になるよう依頼された。現在も勤めがあるが、できる範囲での活動でよいとの話を聞き、お引き受けすることにした。

四月から活動が始まった。この地域に住んで、三十年近くになる。

知っているようで知らなかつたこと、新たな発見があつた。

そのうちの 하나가、防犯パトロールでのことである。地域を巡回する道中、先輩の役員さんから「ここまでがうちの自治会だよ」と教えていただいた。地域の境界を初めて知った気がする。

次は納涼祭である。十年ほど前、当時の自治会長さんの発案で始まつたそう。私が子供の頃、この地域は一面畑だつた。その後、開発が進み、今は住宅地となつている。色々な地域から人々は転居してきた。そこで、住民のつながりを深めようと発案されたよう。昨年八月十九日の土曜日に実施された。雨模様のお天気だつたが、小さな公園いっぱいの人出であつた。多くの人と顔を合わせる事ができた。役員として参加してみると、地域を支える地道な活動を垣間見ることもできた。事前の打ち合わせ会議、当日は朝からの準備に始まり、終了後の片付け、翌日の最終片付けと、協力して行事をやり遂げた。発案者の意思が脈々と引き継がれていることに感動した。

微力ではあるが、地域のために少しでも貢献できたらと思う今日この頃である。

読書の楽しみ

寄居　松村　行康

先日読んだ本の中に、最近「一日の読書時間が〇分の大学生が約五割に達する」という調査結果が報告されてきました。その中で、

ある大学生が「読書が生きる上で糧になつたと感じたことはない。読書はスポーツと同じように趣味の範囲であつて、自分にとってはアルバイトや大学の勉強のほうが必要」と話しています。確かに読む、読まないは本人の自由であり強制されるものではありません。

しかし、読書の楽しみを知っている人は本がどれだけ多くのものを与えてくれるか、想像する力、感じる力、考える力、知的好奇心まで培ってくれると言います。本は読まなくてもいいと思つている



〈回想〉

人は、気づかないところで大きなものを失つていと感じています。十月の朝日新聞の天声人語に作家の井上未映子さんが岩波文庫を例にあげ、変わった本の選び方を勧めていました。書店の棚の前に立ち、目をつぶる。手を伸ばし指先に触れた最初の本を買い、必ず読み切る。書名の意味すらわからなくてもそれが「自分の知らない何かに出会う」「自分の意識からのつかの間の自由を味わつてみる」ことの実践なのだと思つています。私には、そこまでの勇氣はないが、千円でお釣りのくる文庫ならなじみのない分野について伸び、気づけば積ん読が増えているような気がします。

退職した今では、月に二〜三冊程度様々な分野の本を読んでいきます。趣味の野菜つくりと並行し時間を見つけて読書するのが楽しみ一つです。



同好会だより

写真同好会

岡部 弘行

会活動は円熟期に入り、写真を見ただけで誰の作品か見当がつくようになりました。地域の行事、瞬間の映像、パソコンでの加工写真、山、季節の風景など、作風がそれぞれに決まってきたように思います。写真を撮るために出かける人、出かけたついでに写真を撮る人、撮ってくる人など様々。それにまつわるエピソードも興味津々。

また、デジタル写真の進歩に遅れないよう、パソコンと一体となった「今の写真」の勉強も。上手下手は不問、写真なしでも参加できる、ゆるやかな会です。

囲碁同好会

深田 忠雄

◎春季大会成績 五月二十日
優 勝 林 健次
準優勝 深田忠雄

◎秋季大会成績 十一月十一日
優 勝 飛田典保
準優勝 来間平八

昨年十月、井山裕太名人が復活し、それまでに防衛した棋聖・本因坊・十段・碁聖・王座・天元と合わせ再び「七冠」を果した。

師匠の石井九段は「奇跡の中の奇跡」と言っている。

「上には上」と驚きつつ、年二回の大会、月二回の例会に参加できる幸せをかみしめている。

絵画同好会

吉田寿美子

あつという間に十二年です。昨年は江南ピアで第十二回の水墨画・絵画合同の同好会展を九月末に開催しました。立派な看板を館長さんが掲げて下さり、実に素晴らしい展覧会場でした。しかし観て下さる人があまりに少ないので残念でした。同好会ですのせめて同じ仲間のお出でをお待ちしていたのですが…。今年に期待します。

水墨画同好会

篠崎 忠男

深谷公民館を会場に月二回例会を開いています。

時間は午前九時から十一時三十分頃までです。

指導者は小林芳雄先生です。

いつも進んだ技法を見せてくれ、そこから学んでいます。

水墨画制作に取り組んでいる時筆の穂先に神経を集中し、時の過ぎるのも忘れてしまうことがあります。集中できる時間は充実している証拠かもしれません。

ピアで開かれた大里退職校長会の作品展には四人が出品、計六点が展示されました。

茶道同好会

高橋 伸子

お誘いいただいて昨年五月、茶道同好会に入会いたしました。

会員九人(男性四、女性五)は、深谷公民館で、雲伝心道流茶道指南の梶並圭舟先生に茶道の心得や所作をご指導いただいております。

七十歳を超えて、ものを習うことは大変ですが、先生や先輩の方々が丁寧な何度でも教えて下さ

いますので、感謝して臨んでおります。

床の間の軸や季節の花を愛で、まるやかな水音を聴きながら、心をこめて点ててくださったお茶をおいしくいただいております。



(憩う)

第12回 親睦ゴルフ大会成績

十一月二十四日、二十三名の参加を得て、秋季親睦ゴルフ大会を妻沼ゴルフ場で開催しました。前日の雨も嘘のように上がり、多少の風も気にならない晴天の中、皆さんが元気にラウンドすることができました。また、スタート前には、参加者全員の集合写真を撮り、思い出の一ページとなりました。

以下、入賞者等を記載し、報告といたします。

優 勝 (支部長杯) 強瀬 誠
準優勝 加藤眞司
三 位 関根隆夫
ベストスコア 85 強瀬 誠



地区だより

塩古墳群

比企丘陵の北端、森林を霧が覆うと神秘的な場所となり、比喩で旧江南町のことを「埼玉の軽井沢」と言われている。そんな場所に塩古墳群がある。

この古墳群は、前方後方墳二基のほか、方墳二十六基・円墳八基が残されており、古墳時代前期（四世紀中葉～後半）の土器等の遺物が出土している。

主墳の二基はいずれも、前方後方墳で、北側の第一号墳は、全長約三十五m、高さは前方部で一・七m、後方部で五・九mの大変大きなものである。

これらの古墳群は、密集しており、下草も刈られ、きれいに手入れがされているので、一周することができ。

四世紀という早い時期に人々が生活できる、豊かな地域だったことが想像される。

ぜひ訪問し、古代のロマンに浸ることをお勧めしたい。

塩という地名の由来は、地名

熊谷南 飯島 修

辞典によると、「シオ」はシワと同じ意味を持ち、谷津の入り組む地形を呼ぶと説明している。熊谷市の「塩」の地名も地形に由来するものと思われる。



役員・理事研修会

本田 技研工業 株
寄居完成車工場の見学

H29・9・7

寄居工場では約二千人の従業員で年間二十五万台、一日当たり千五十台の車が生産されています。工場内に人が少ないことに驚きました。各ラインでは数百台のロボットが、見て、測って、考え、組み立てる革新的な工場でした。寄居工場は、革新的な生産技術を今後、海外の生産拠点へ発信し

絵画の説明

今回掲載させていただいた人物画は、退職後も精力的に制作活動を続けておられる野澤優先生の作品です。地元の川本公民館に、毎月二回、絵仲間同士で集い、折々の衣装のモデルさんから季節感や内面の感情まで表現しようと取り組んでおられるとのこと。

人物は、頭部、胸部、腰、手、足の骨格まで把握して描かないと、形の狂いが一目瞭然に現われてしまうので、ご苦労されていると話されました。貴重な作品のご提供に改めて感謝申し上げます。

ていく「マザー工場」なのだそうです。



計報 平成二十九年

氏名	年齢	逝去月日	地区名
金谷 俊夫	86	9・24	熊谷北
柏崎 俊夫	89	9・25	熊谷東
高橋 忠清	87	11・30	熊谷西

埼玉の学校教育に大きな足跡を残され、教育行政・社会教育でも実績を積まれた先生方をお見送りした一年でした。ここに、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。



文芸

短歌

ウォーキングの朝に

深谷北 高松 明子

早朝は銀木犀の香の中に
初雪草と吾亦紅の花

幼き頃野に咲き満ちし小さき花
今は華やかに庭にわに咲く

枝すべて切り落とされし大櫨
長き年月憩わせしものを

この一言に

寄居 町田たか子

自らの一步出だせぬもどかしさ
蜘蛛膜下とふ発作のあとは

「監督でいいから山へ出て来い」と
監督されつつ夫に手を貸す

「婆さんが来ると捗る」の一言に
草引く畑へと地下たびをはく

俳句

菊人形

熊谷西 新藤 金一

菊人形今生の笛吹きやまず

一徹の老いの秋耕一直線

名月の下雑念の失せるまで

柿たわわ故郷の空となりにつけり

くろがねの貨車霧を来て霧を去る

四季めぐり—この一年—

熊谷南 大橋ひろみ

半世紀越えて恩師の秋だより

孫来る石油ストープお蔵入り

六十個弟祝うイチゴかな

クマゼミのふり注いでや異人館

曼珠沙華朝日に開く仏の手

嗚呼 妻沼線

熊谷中央 小林 明

菜の花やプレートまぶしラストラ
ン

外灯の夕霧深く駅舎跡

向ひ風鉄路なき径冬来たる

冬されや橋脚残し妻沼線

冬茜鉄路跡にも我が家にも

秋色

熊谷北 井田 照幸

夕散歩訪れるのは稲穂の香

一夜明け花火が鳴ったら運動会

熟れし柿ひときわ高きモズの声



(読書)

編集後記

多くの会員の皆様のご協力により「おとさと」第四十四号をお届けすることができました。

幅広い年代の方々から、日々目標を持って、生き生きと過ごされている姿が目には浮かぶ原稿ばかりでした。多くの「元氣」をいただきました。文芸では、意欲的に学ばれている作品に感動しました。また、絵画同好会の野澤優先生に肖像画のご協力をいただきました。貴重な玉稿・作品をお寄せいただきました。皆様に心より感謝いたします。



平成29年度
広報部員

郎守司 昇武治 誠久 康一
喜一 眞 文宏 和行 俊
本井 藤中 橋木 瀬場 村井
塚新 加田 根荒 強馬 松新

埼玉県退職校長会大里支部会報

(第四十四号)

発行 平成三十年二月一日
発行者 支部長 若林直樹
印刷所 光陽社印刷所

熊谷市本町一丁目一〇
(〇四八)五二一〇七五七